

大地震に備えて

知っていますか？ 災害情報の入手法

目次

- | | |
|---------------------------------------|----|
| 1. 事前に危機を察知し、有効な手段を！..... | 1 |
| 2. 危機発生！
その時、欲しい情報はどうすれば手に入る？..... | 7 |
| 3. 被災したら 電気・水道・ガスはいつ回復するの？..... | 11 |
| 4. 普段から危機発生に備えよう！..... | 13 |



1. 事前に危機を察知し、有効な手段を!

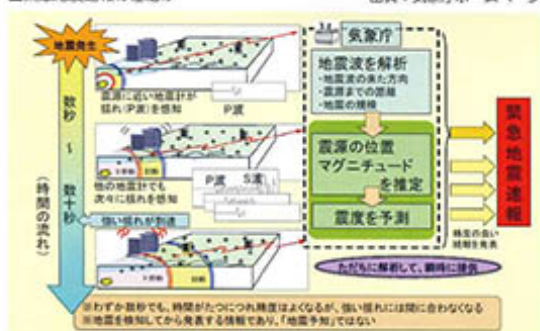
いつ大地震が来るのか?それが正確に分かることができれば、どんなにすばらしいでしょう。大地震を事前に察知して、私たちのもとに情報が届く仕組みが、整いつつあります。

● 緊急地震速報で事前に地震情報をキャッチ

緊急地震速報は、地震波が地表に到達して揺れが発生する前にみなさんに地震の発生をお知らせする地震予報・警報です。世界にも先例がない画期的なシステムです。

■緊急地震速報の仕組み

出典:気象庁ホームページ



● 緊急地震速報は様々なところで活用されています

緊急地震速報は、病院、学校、鉄道、空港など、様々な施設で利用されています。緊急地震速報を受信して避難行動を促し、被害を軽減することが期待されます。

緊急地震速報の活用のイメージ (1)



出典:気象庁ホームページ

緊急地震速報の活用のイメージ (2)



出典:気象庁ホームページ

◇ 緊急地震速報は、地震予知情報ではありません

緊急地震速報は、地震の揺れが発生する前にお知らせする警報です。地震を予知してお知らせする情報ではありません。

● 緊急地震速報は、どうすれば手に入るの?

緊急地震速報は、テレビ、ラジオ、携帯電話、街頭スピーカーから入手が可能です。また専用端末機を導入すると、直接、緊急地震速報を受信することができます。

◇ テレビ・ラジオの場合



テレビでは、チャイム音が鳴り、震源と揺れが予測される地域を地図と文字で伝えます。ラジオでは、通常番組を中断し、チャイム音に続いて、テレビと同様の内容を音声で速報します。

NHKのホームページからチャイム音を聞いてみよう

NHK緊急地震速報ホームページ
<http://www.nhk.or.jp/bousai/about.html>

◇ 携帯電話の場合

携帯電話各社より、緊急地震速報の配信が行われています。受信できる携帯電話や受信のための設定については、携帯電話各社へお問い合わせください。

ドコモのホームページからチャイム音 (各社共通) を聞いてみよう

ドコモ緊急地震速報ホームページ
<http://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/aremail/about/index.html>



◇ 街頭スピーカーの場合

市区町村では、消防庁が防災行政無線を使って、全国瞬時警報システム (J-ALERT: ジェイ・アラート) による放送を行います。

◇ 専用端末機の場合

専用端末機を購入・設置することで、個人住宅、マンション、職場、学校、病院などで、揺れが発生するまでの猶予時間と揺れの規模を知ることができます。

◇ これまでの緊急地震速報の提供状況

平成19年(2007年)10月1日にはじめて、緊急地震速報が、一般向けに発表されるようになりました。2年間で12回発表され、テレビやラジオで伝えられています。平成20年(2008年)6月14日(土)午前8時43分頃に発生した岩手・宮城内陸地震では、朝のテレビを通じて、緊急地震速報が発信されました。

■岩手・宮城内陸地震の際のNHKの放送



◆ 車を運転中に受信したら



車を運転中に、ラジオが緊急地震速報を受信したら、ハザードランプをつけて減速し、車を左側に寄せてください。ほかの車がラジオを聞いているとは限りません。急ブレーキを踏むことは、避けてください。交通事故を起こす可能性があります。

◆ ビルの中で受信したら



高層階ほど、床の揺れが大きくなります。机やテーブルの下にもぐってください。窓ガラスからは離れてください。キャスター付きのコピー機などは、固定しておくことが重要です。

低層階では、廊下やエレベーターホールなどの広い空間が安全です。揺れがおさまっても、むやみにビルの外に避難しないことです。ビル内での火災は、煙に巻き込まれる危険性があります。姿勢を低くしてビルから避難してください。

◆ 電車で受信したら



緊急地震速報が出ると、電車は急停止します。車内で「急停止します」というアナウンスがあります。吊革や手すりもしっかりとつかまってください。「地震だ!」と騒ぐとパニックになります。「落ち着け!」と叫んでください。あなたの声が、パニックを防ぎます。

◆ デパートや地下街で受信したら



デパートや地下街では、チャイム音が流れて、地震への注意を呼びかけます。館内放送や店員の避難誘導に従い、避難をしてください。避難指示があるまで、むやみに外に出ないことです。ガラスケースから離れ、通路の中央でしゃがんで頭を守り揺れに備えてください。むやみに外に出ようとすると、多くの人々が階段に殺到しパニックを起こし、大惨事になる恐れがあります。

◇ 自治体では災害時要援護者向けに災害情報を配信しています

自治体では、高齢者や障害者といった災害時要援護者やその家族を対象に、携帯メールやFAXで災害発生情報・避難情報・安否情報を提供しています。災害時要援護者登録をしておけば、自動的に災害情報が受信できます。詳しくは、お住まいの自治体にお問い合わせください。



2. 危機発生！その時、欲しい情報は どうすれば手に入る？

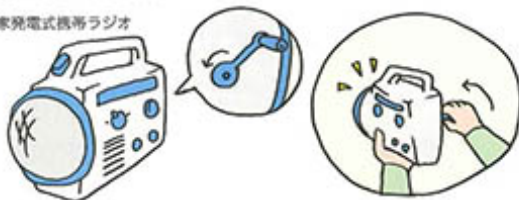
危機に直面すると、水や食料と同じくらい欲しいものがあります。情報です。どうすれば、情報は手に入るのでしょうか？

● ラジオは必需品！災害放送で情報の確認を！！ 工夫次第で携帯電話にも意外な使い方が！

危機発生時に必要な情報は、今後の危機可能性情報、被害情報、避難情報、安否情報などです。これらの情報を手に入れる手段には、テレビやラジオが有効です。ラジオは、携帯のもの、停電時でも使用可能な種類が最適です。

携帯電話は情報発信や収集のほか、音を使って自分の存在を知らせたり、手もとを照らすライトとして使うこともできます。

■手巻き自家発電式携帯ラジオ



レバーを
回すだけで
簡単充電！

ラジオやテレビで放送される災害放送は、被害状況、津波などの気象情報、安否情報です。特定の地域にしぼった情報や、避難生活などの情報を得たい場合には、それぞれの地方の放送を聞くのが良いでしょう。

◇ ラジオや携帯電話のバッテリーにご注意！

ラジオや携帯電話は、持ち運びが便利で停電にも強く、情報を収集するには効果的な手段です。注意したいのは、バッテリーです。単三電池を使用できる携帯電話用充電器や、自家発電式の携帯ラジオをあらかじめ準備しておきましょう。

● 電話がつながりにくい時は、 災害用伝言ダイヤルで安否の確認をしよう！

◆ 災害用伝言ダイヤルを利用しよう

大地震等の災害発生時は、被災地に対する安否を気遣う電話や、お見舞いの電話等により、電話がつながりにくくなる場合があります。そのような時には災害用伝言ダイヤル（171）や災害用伝言板を利用することで、円滑・確実に安否の確認をすることができます。

災害時には自ら安否情報を発信するよう心がけてください。

◆ 災害用伝言ダイヤル（171）の使い方

■災害用伝言ダイヤル（171）



地震などの大規模災害が発生し、被災地への通話がつながりにくくなった場合、災害用伝言ダイヤルが提供されます。災害用伝言ダイヤルは、公衆電話や携帯電話・PHSからも使用可能です。1伝言あたり30秒、1電話番号あたり1～10件の伝言を残すことができます。録音保存期間は48時間です。48時間が過ぎると、伝言は消去されます。

■録音の方法

- ①「171」にダイヤル
- ②録音する場合は「1」を、再生する場合は「2」をダイヤル
- ③自分の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤル
- ④伝言を録音します

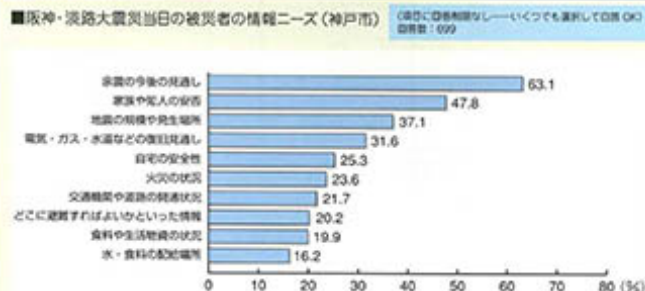
■再生の方法

- ①「171」にダイヤル
- ②録音する場合は「1」を、再生する場合は「2」をダイヤル
- ③連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤル

※伝言の録音・再生には通話料がかかります。

◇被災者が欲しい情報とは？

阪神・淡路大震災では、震災当日に被災者が欲しい情報は、今後の危機発生可能性情報や家族・知人の安否情報でした。



出典：東京大学社会情報研究所「災害と情報」研究会
「1995年阪神・淡路大震災調査報告-1-」平成8年3月発行

● 災害用伝言板で安否情報を確認・発信しよう！

◆ 災害用伝言ダイヤル以外にも、災害用伝言板への書込も有効です

安否情報の確認・発信には、災害用伝言ダイヤル（171）だけではなく、災害用伝言板も有効です。携帯電話会社でこのサービスを行っています。2010年3月1日（月）から、携帯電話各社を横断的に検索できる「全社一括検索サービス」が始まりました。どの携帯電話からも各携帯会社の伝言板のメッセージを確認できます。詳細は下記の各携帯電話会社で、ご確認ください。

■ 各携帯電話会社の災害用伝言板サービス一覧

- ◆ iモード災害用伝言板サービス <NTTドコモ>
<http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>
- ◆ EZweb災害用伝言板サービス <KDDI (au)>
http://www.au.kddi.com/notice/saisai_denson/index.html
- ◆ ソフトバンク災害用伝言板サービス <ソフトバンク>
<http://mb.softbank.jp/scripts/japanese/information/denson/index.jsp>
- ◆ ウィルコム災害用伝言板サービス <ウィルコム>
<http://www.willcom-inc.com/ja/info/denson/index.html>
- ◆ イー・モバイル災害用伝言板サービス <イー・モバイル>
<http://emobile.jp/service/option1.html>

◆ 災害用伝言板（iモードの場合）の使い方

● メッセージを登録する場合



「Menu」のトップに表示される「災害用伝言板」を選択。

「災害用伝言板」の中の「登録」を選択。

現在の状態について4つの中から選択し、100文字以内のコメントを入力します。

「登録」を押すと、伝言板への登録が完了となります。

● メッセージを確認する場合



「Menu」のトップに表示される「災害用伝言板」を選択。

「災害用伝言板」の中の「確認」を選択。

安否を確認したい人の携帯電話番号を入力して検索ボタンを押してください。

ご覧になりたいメッセージを選択。

登録されている状態とコメントをご覧いただけます。

● 人が集まるところに情報も集まる！避難所や役所で情報収集を！

地震などの災害に直面すると、食料や水の供給、トイレや風呂、薬や健康相談といった生活全般について、自治体に頼ることになります。給水や健康相談といった行政からの生活情報は、避難所やお住まいの役所にある掲示板や、そこで配布されるビラから入手できます。

- ◆ 生活情報を入手するための手段
 - ・ 防災行政無線による街頭スピーカー
 - ・ 広報車による街頭告知
 - ・ チラシの配布
 - ・ 避難所や役所の掲示板

■ 避難所の掲示板

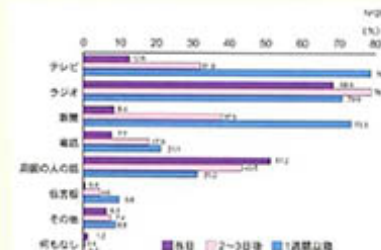


出典：神戸市広報課発行「震災10年～神戸の記録～」より

阪神・淡路大震災の際の情報源となったメディアは？

阪神・淡路大震災では、地震当日から2～3日後までの間は、ラジオ、口コミが重要な情報源となりました。テレビや新聞は、被災後1週間以降でないと、情報発信源になりません。

■ 地震後の情報源（文化放送調査）



出典：社団法人日本民間放送連盟音声放送委員会（現・ラジオ委員会）「阪神大震災とラジオ 震災放送の検証と歴史」



3. 被災したら電気・水道・ガスはいつ回復するの？

大地震が起こると、電気・水道・ガスなどライフラインが止まります。道路や線路は遮断され、車も電車も運転できません。復旧までには、自分たちで水・電池・懐中電灯・ガスコンロなどを用意しておかなければなりません。ライフラインの復旧には、時間がかかります。

● 電気は6日、水道は30日、ガスは55日

阪神・淡路大震災では電気・水道・ガスの復旧には、それぞれ6日、42日、85日の時間を要しました。首都直下地震が発生した場合には、電気は6日、水道は30日、ガスは55日の時間が復旧に必要と想定されています。行政から支援が届くまでの3日分は、飲料水・食料・医薬品・卓上コンロ・懐中電灯・簡易トイレなどを用意しておきましょう。



出典：財団法人防災科学総合センター
災害写真データベース

- ◆電気関係
 - 自家発電式のラジオや充電器を用意
- ◆水道関係
 - 水は、1人1日3リットル計算で3日分用意
 - 盲段から、浴槽に水を用意
 - トイレが使えなくなると想定して簡易トイレを用意
- ◆ガス関係
 - 食料は、最初の3日分は水や火を使わなくてもよいものを中心に。
 - コンロは代えの燃料も忘れずに用意

● 復旧情報は自治体や各事業者のホームページを確認

電気・水道・ガスなどの復旧の進捗状況は、自分の住まいの自治体や各事業者のホームページを参照して確認してください。被災時はネット環境が十分に整わないこともありますので、避難所や役所で、新しい情報を常に確認することを心がけてください。

■各事業者のホームページアドレス

- 東京電力 : <http://www.tepco.co.jp/index-j.html>
- 東京都水道局 : <http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/>
- 東京ガス : <http://www.tokyo-gas.co.jp/safety/index.html>

◇なぜ水道やガスは、電気よりも復旧に時間がかかるのか？

電気は、早く復旧できるように高圧線を二重に張り巡らせて配置しています。水道やガスは、地下のパイプをつなげなくてはなりません。そのため、電気より復旧が遅くなります。特にガスは、ガス漏れがおきないように点検するため、電気や水道より時間がかかる見込みとなっています。

● 復興協議会に参加して、地域の復興情報を手に入れよう！

大規模災害から1か月、電気・ガス・水道が復旧して一段落すると、あなたの生活の再建や、住まいの地域の復興にかからなければなりません。生活再建や地域復興のための情報は、どうすれば手に入るのでしょうか。

◆ みんなの力で復興を成し遂げる



行政の復興支援に関する情報を手に入れるためには、町内会や自治会によって組織された復興協議会などの地域の復興活動に参加することが近道です。地域のみなさんが、行政・NPO・ボランティアとともに復興について一緒に考え、活動することで、迅速な復興が可能となります。

◆ 地域の防災組織やまちづくり協議会に参加しよう！



地震などの大規模災害から、地域が復興するためには、地域のみなさんの助け合い（共助）が必要です。住まいの再建や市街地の再整備、行政による支援金の交付といった、生活再建や地域復興は、行政による支援（公助）や被災者個人の力（自助）だけでは、成し遂げることはできません。平時から地域の防災組織やまちづくり協議会に参加し、地域づくり活動に取り組むことが大切です。

◇ あなたの地域では、防火水槽を設置していますか？

防火水槽は、火災が発生した際に、最低限の消火活動に必要な量の水を地中に蓄えておくための水槽です。地震などの大規模災害時に飲料水として兼用できるのは、飲料水兼用耐震性貯水槽と呼ばれています。お住まいの地域にも防火水槽が設置されているか、確認しておきましょう。



4. 普段から危機発生に備えよう！

危機が発生した際に、迅速に災害情報を収集し、有効な対策を取るには、普段からの情報収集が不可欠です。あらかじめ危険地域や避難場所、防災倉庫の場所を把握しておく必要があります。

● 防災パンフレットやハザードマップで地元のことを知ろう！

自分の住まいの地域の危険箇所や避難所、備蓄倉庫や防火水槽がどこにあるのか、あらかじめ把握しておくことは大切です。自治体では、地域の防災パンフレットやハザードマップを配布しています。家族や学校、自治会や町内会などで、避難場所や避難経路を確認しましょう。集合場所や、備蓄品の保管場所、食料などの賞味期限も確認しましょう。



● 地元の防災訓練に参加しよう！

消火活動や救助活動にも、地域のみなさんの協力が必要です。阪神・淡路大震災では、救出された方の約8割が「共助」により救出されました。自治会・町内会・学校などで取り組まれている防災訓練に参加し、消火活動や救助活動の知識や技術を習得しましょう。



◇ DIG (ディグ) で災害図上訓練をやってみよう

DIG (Disaster (災害), Imagination (想像力), Game (ゲーム)) は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。参加者は地図を囲み、書き込みを加えながら議論していきます。ゲーム感覚で災害時の対応を具体的に考えることができます。

● 災害図上訓練 DIG のホームページ
<http://www.e-dig.jp/>

● 帰宅支援マップで帰宅までの道のりを把握しよう！

都市部での大規模災害では、帰宅困難者が発生する可能性があります。東京都内では約392万人、都内への一時流入者を合わせると、448万人も帰宅困難者が発生すると想定されます。各交通機関は止まりますので、徒歩で帰宅しなければなりません。あらかじめ市販の帰宅支援マップを用意し、帰宅ルートを確認しましょう。



◆ 徒歩で自宅まで帰る際のポイント

徒歩で帰宅する際には、日中のみ行動し、夜間の行動は避けてください。発災すれば、大勢の人が帰宅し始めます。道路は混雑が予想されます。帰宅までの所要時間が2倍～8倍を要すると思われます。長時間歩くので、底が厚く歩きやすい靴に履きかえてください。

危険な箇所を避けることが重要です。安全と思われる場所も被災後は危険な箇所になります。窓ガラスの破片やブロック塀の倒壊などに気を付けてください。先を急がず、1時間ごとに10分休憩を入れましょう。コンビニ、ガソリンスタンド、休憩ポイントをあらかじめチェックしておき、こまめに情報を入手しましょう。

◇ 無理して帰宅しないのも一つの手です

会社など、出先で被災すると、一刻も早く自宅に戻りたくなるものです。しかし、状況を見て、よく考えてみてください。一般に20km程度(徒歩4～5時間以内)が徒歩での帰宅の限界です。自宅までが20km圏内かどうか、確認してください。帰宅までのルートに大規模火災が発生していないかどうか、確認する必要があります。無理な帰宅は避け、会社や避難所で待機するのも、一つの手です。



見えないところで、
つながっています。

一人ひとりの夢が集まり、大きなパワーとなって
皆さんの暮らしの快適さへ。

宝くじの収益金は、

さまざまな街づくりに活かされています。



宝くじの収益金は、
身近な街づくりに使われています。

自分たちの暮らしをよりよくするために。

財団法人 日本宝くじ協会

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

●本誌発行の旨に同意し、本誌に掲載の画像を複製・転載することは、法律で禁じられています。

監修 中領 章 (明治大学危機管理研究センター所長)

発行 財団法人 日本防火・危機管理促進協会

TEL 03-3593-2823 FAX 03-3593-2832 URL <http://www.boukakiki.or.jp>

平成22年7月発行